

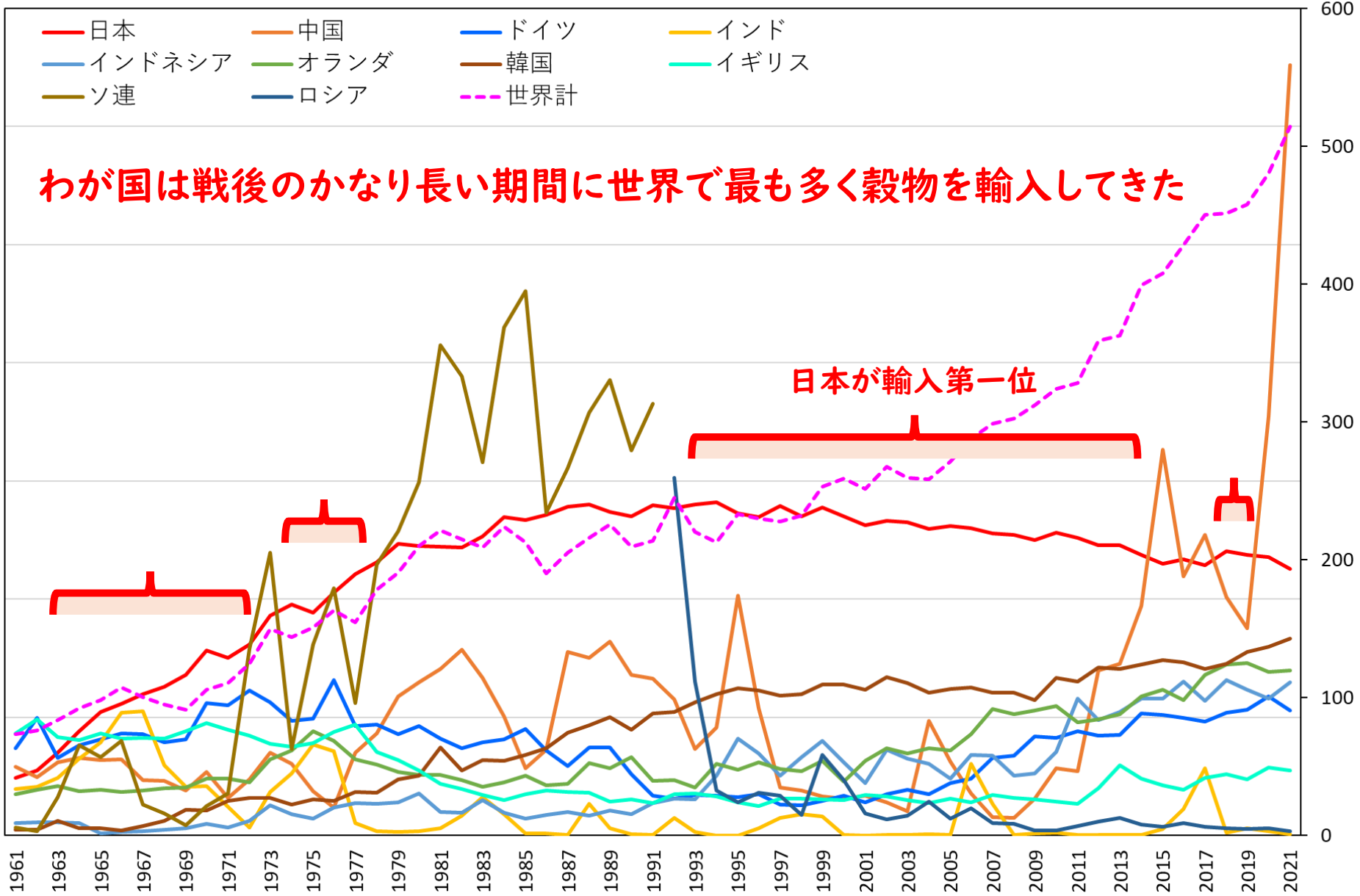
主要国の穀物輸入の推移

(百万トン)

日本 中国 ドイツ インド
インドネシア オランダ 韓国 イギリス
ソ連 ロシア 世界計

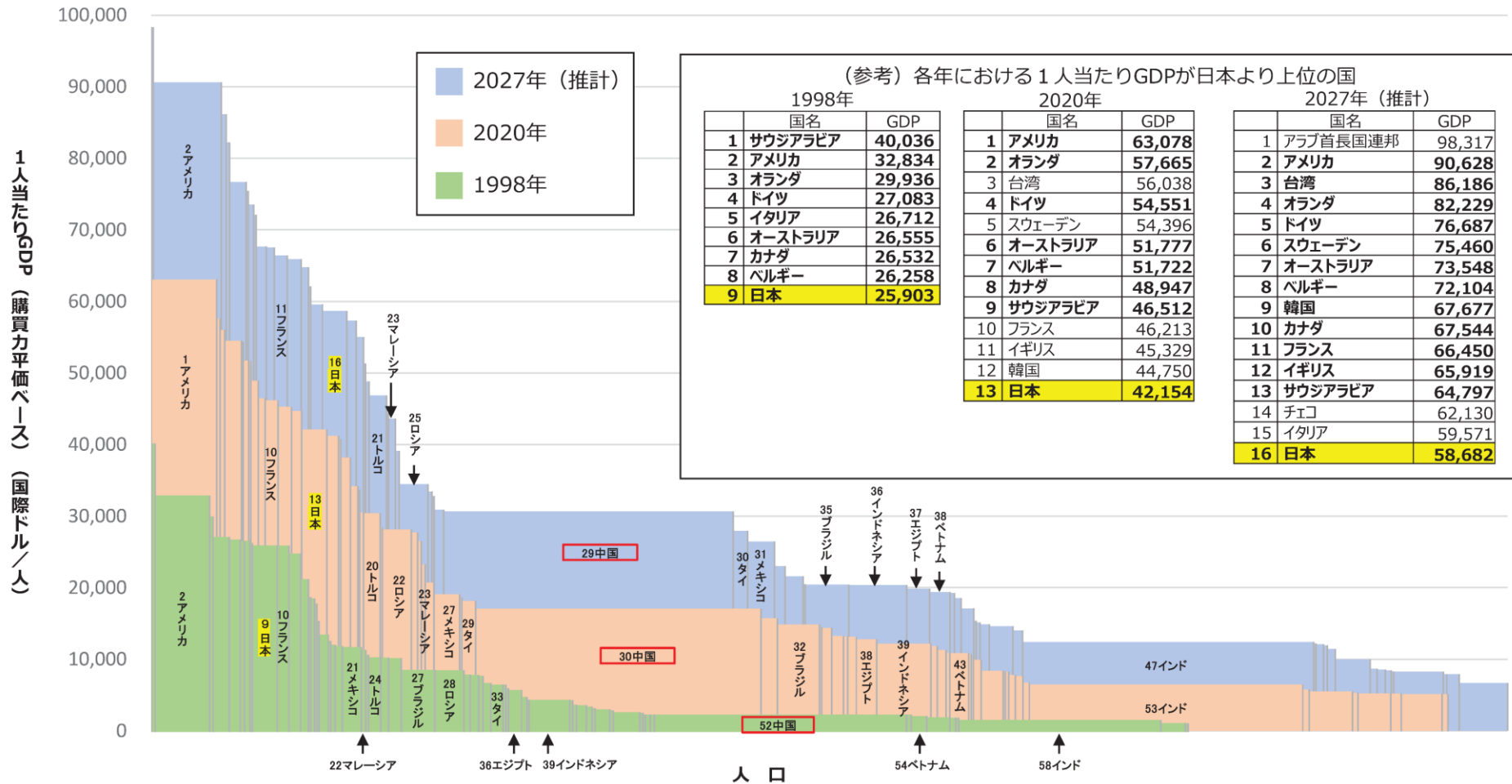
わが国は戦後のかなり長い期間に世界で最も多く穀物を輸入してきた

日本が輸入第一位



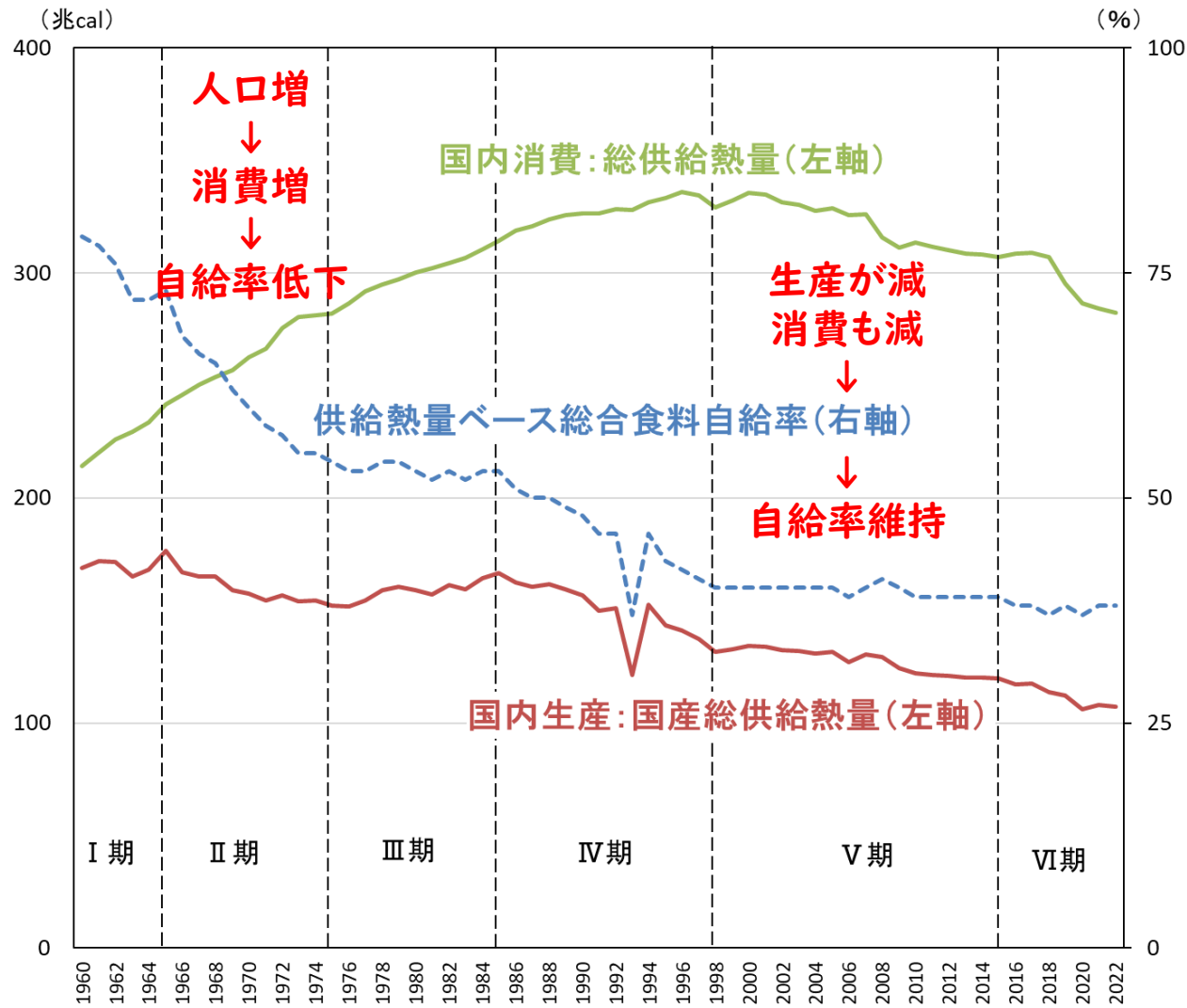
1人当たりGDPの推移

- 1人当たりGDP（購買力平価ベース）について、世界における日本の地位が低下している。
(9位(1998年) → 13位(2020年) → 16位(2027年・推計))
- 人口が多い国・新興国が経済成長により、順位を上げてきている。



資料：1人当たりGDP（購買力平価ベース）は、IMF「World Economic Outlook Database」GDP per capita, current prices (Purchasing power parity; international dollars per capita)
人口は、UN「World Population Prospects : The 2019 Revision」
注1：人口1,000万人以上、GDP上位60か国の国を対象に作成。
注2：2027年のデータはIMF及びUNによる推計。

自給率の変化要因：総供給熱量（分母）と国産総供給熱量（分子）



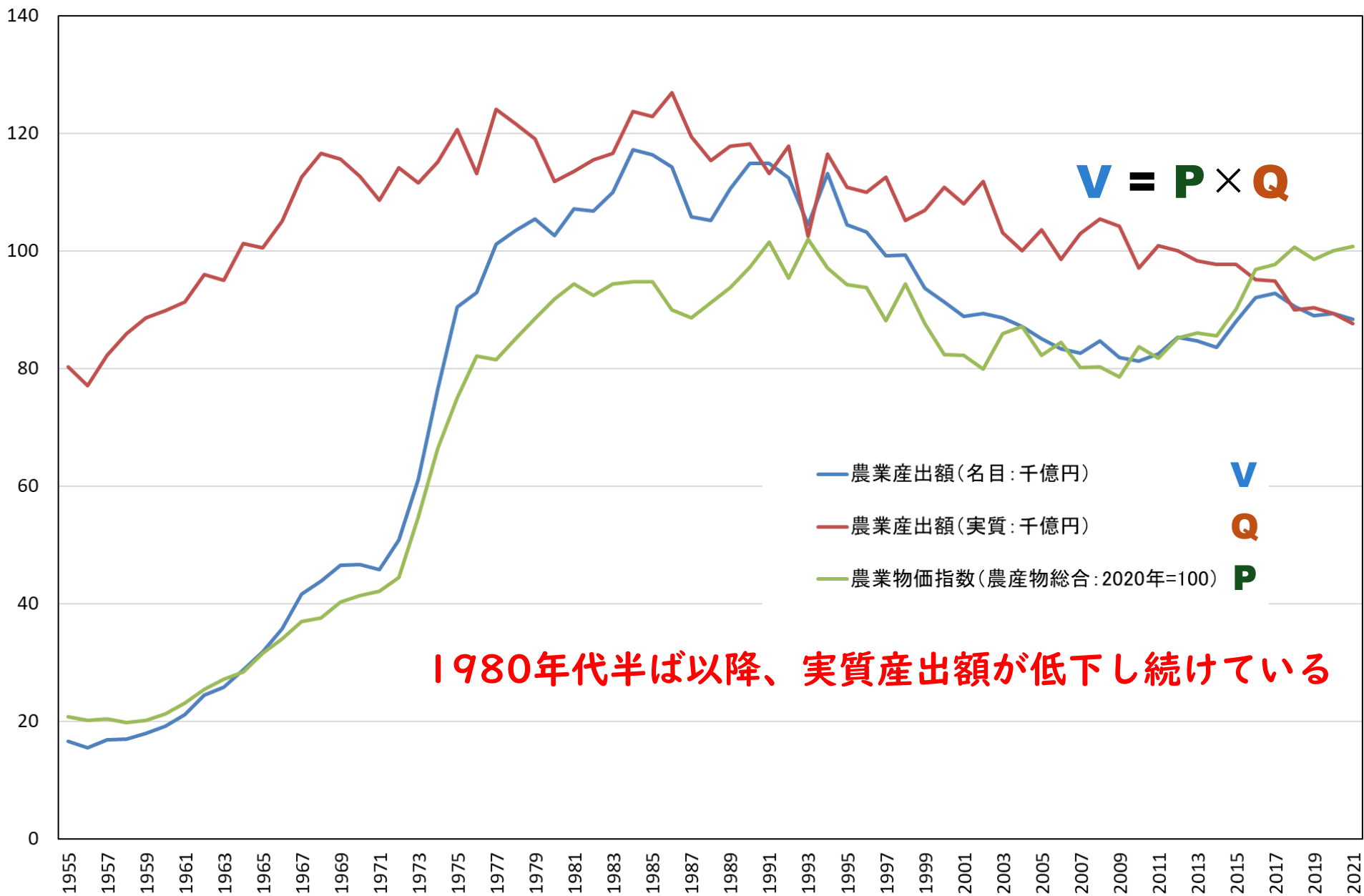
$$\text{供給熱量ベースの総合食料自給率} = \frac{\text{国内供給(分子)}}{\text{国内消費(分母)}}$$

※国内供給＝1人1日当たり国産供給熱量×人口
国内消費＝1人1日当たり供給熱量×人口

- [I 期] 低減期:
国内消費**増加**＋国内供給**維持**
- [II 期] 急落期:
国内消費**増加**＋国内供給**減少**
- [III 期] 維持期:
国内消費**増加**＋国内供給**増加**
- [IV 期] 低減期:
国内消費**増加**＋国内供給**減少**
- [V 期] 維持期:
国内消費**減少**＋国内供給**減少**
- [VI 期] 漸減期:
国内消費**維持**＋国内供給**減少**

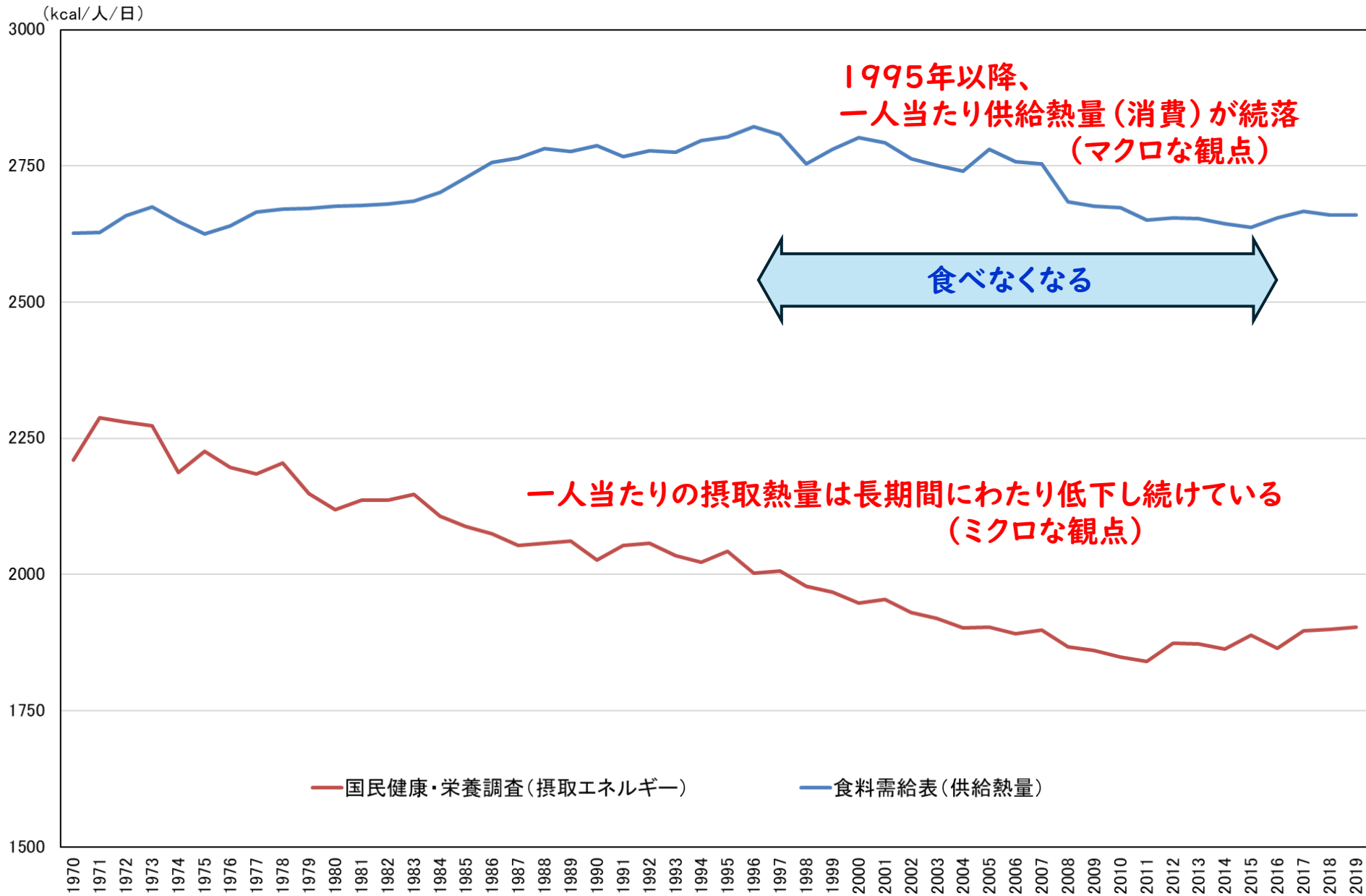
赤字: 自給率低下要因
青字: 自給率向上要因

農業産出の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「農業物価統計」

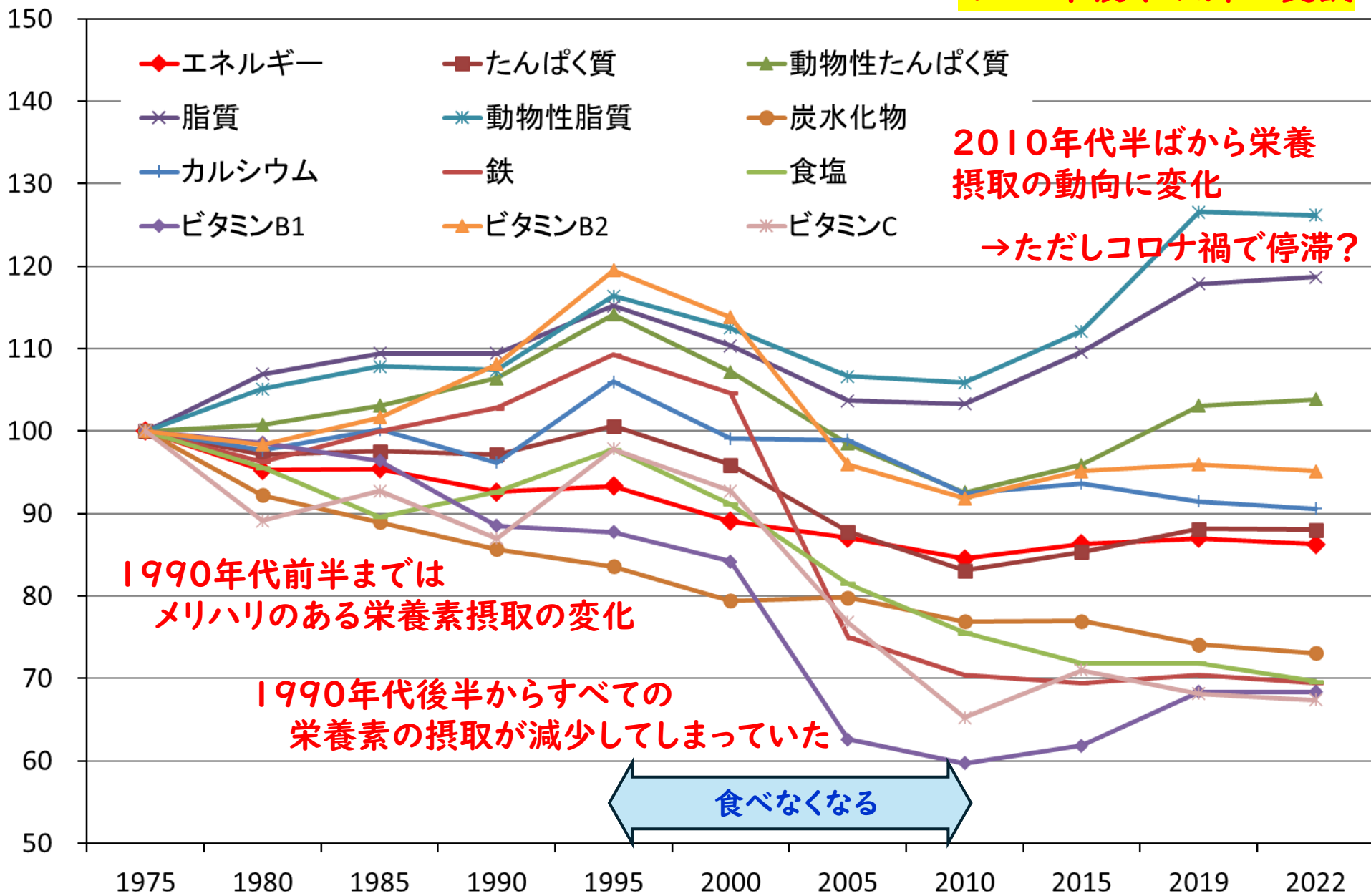
わが国の食料摂取状況



資料：農林水産省「食料需給表」、厚生労働省「国民健康・栄養調査」

栄養素摂取の推移

※90年後半以降の変調



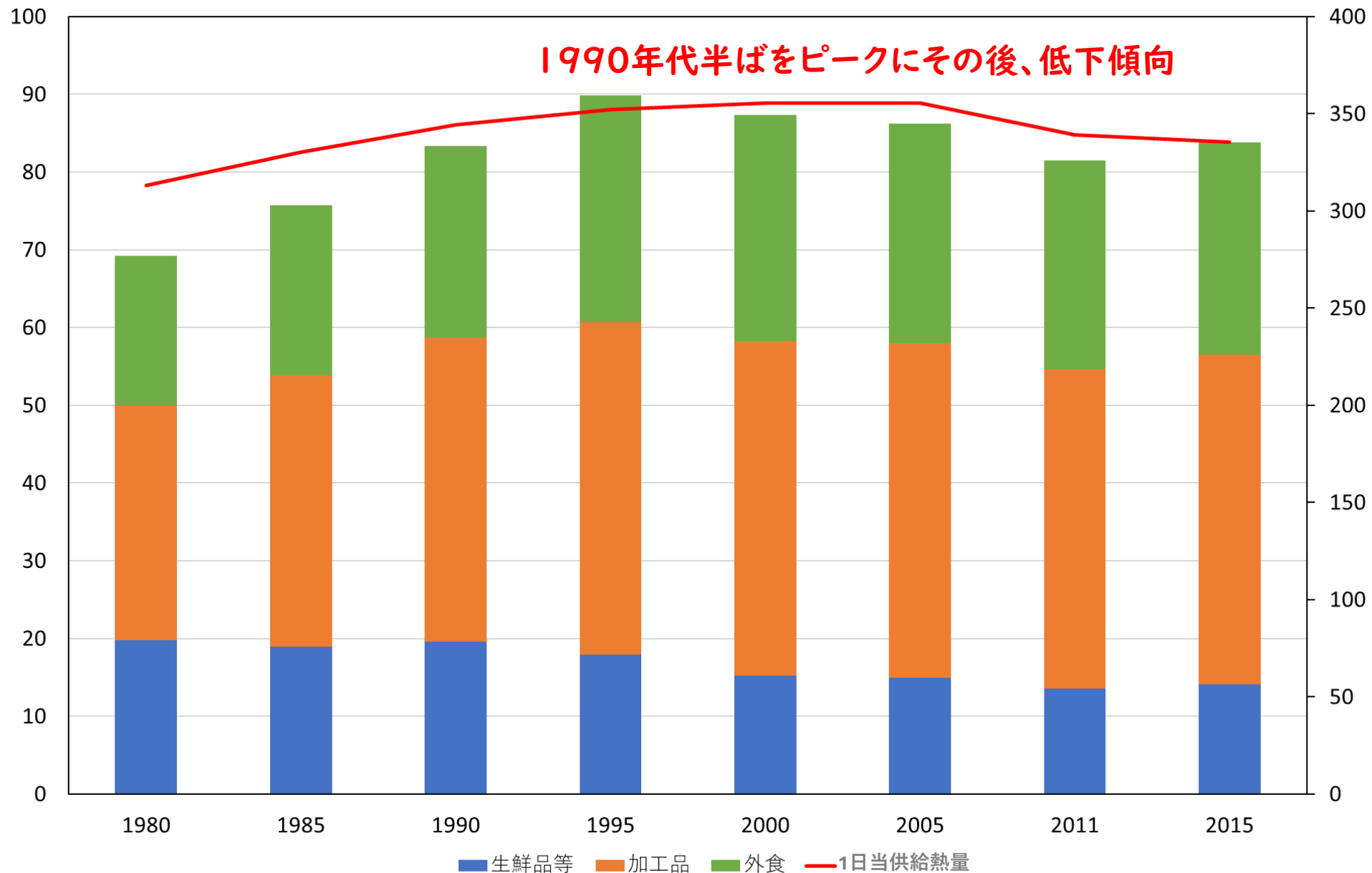
飲食料の最終消費額（実質：2015年基準）

※消費額にも変調が→デフレ下で高いものを買わなくなる

（兆円）

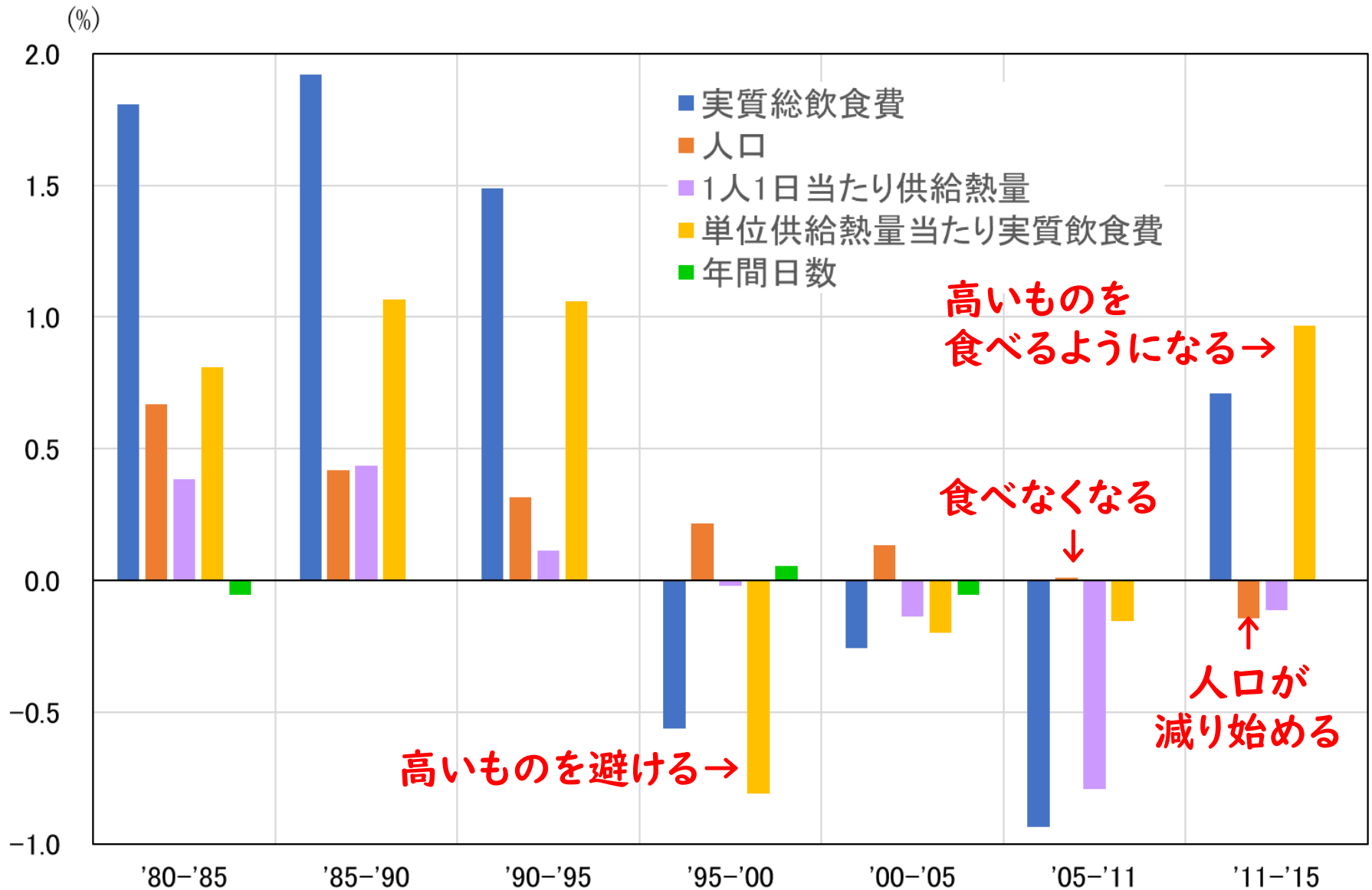
（兆cal）

1990年代半ばをピークにその後、低下傾向

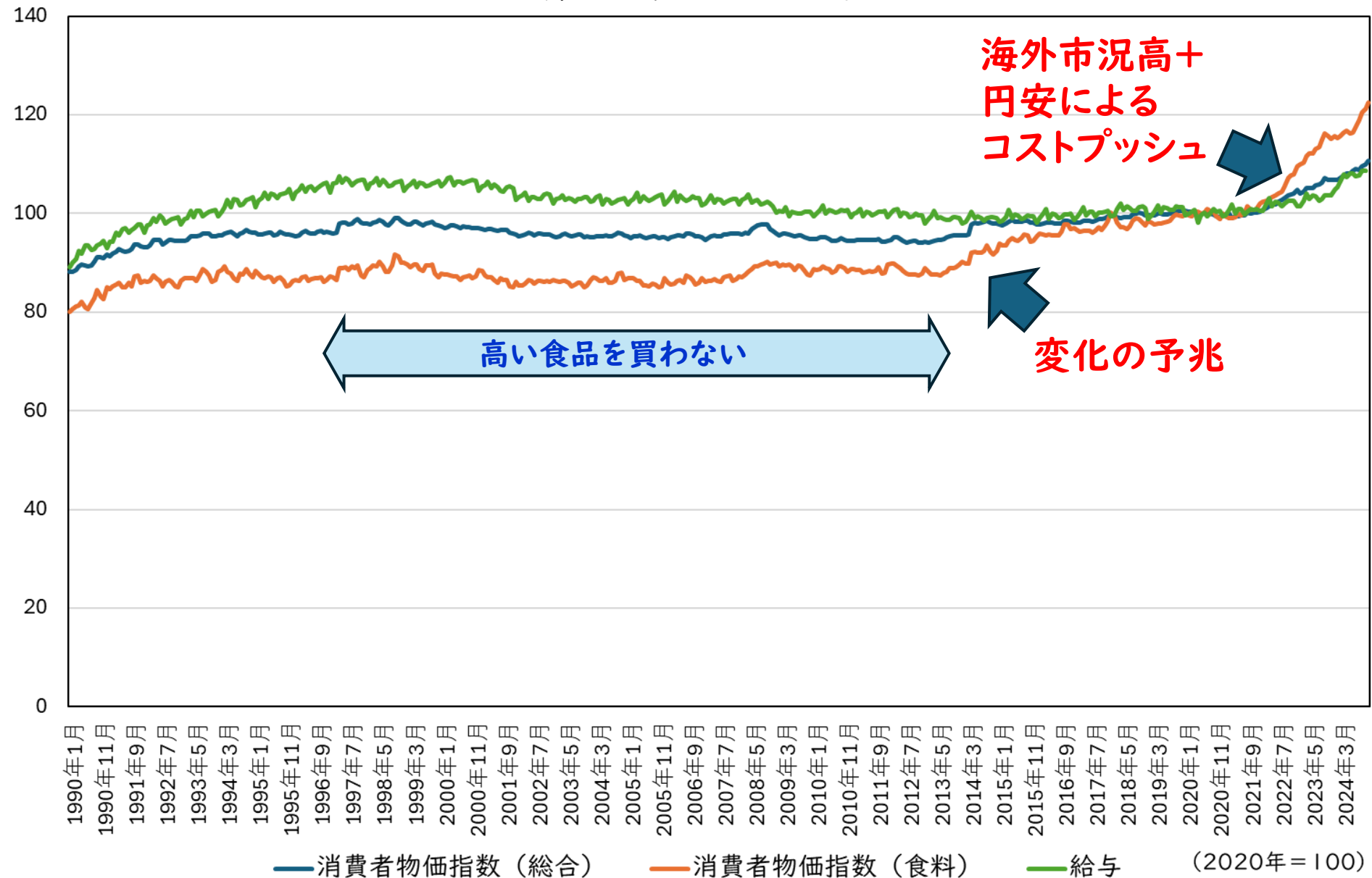


資料：農水省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表」

飲食費変化の要因分解（年平均変化率）



価格・給与の動向



資料：総務省「消費者物価指数」厚労省「毎月勤労統計調査」 ※2024年12月までのデータ

注：産業計・きまって支給する給与・5人以上